

ぱれっと

Palette

5

2020 May
vol.237

「TAC指導員の課題実践報告」 備南営農センターの取り組み内容

農を担う
ブドウ農家 山口 秀樹さん
裳掛地区……………10ページ

<https://www.ja-okayama.or.jp/>

JA岡山は、組合員募集中です!

耕そう、大地と地域の未来。



TAC指導員の課題実践報告

JA岡山営農振興計画に基づいた各営農センターTAC指導員の課題実践計画と取り組み内容について、TAC指導員と農業者の声とともにご紹介いたします。

— 備南営農センターの取り組み内容 —

●露地キャベツの生産拡大 ●水田作玉葱の反収向上



広報 2つの課題実践計画を設定した経緯について具体的に教えてください。

原野TACリーダー(以下、原野)

露地キャベツについて、今のところ栽培面積は拡大していますが、地区の高齢化が進んでいるので今後の生産量減少と農地の流動が懸念されます。将来的には、地域の担い手による生産拡大や新規栽培者の募集が必要となります。また、生産者の所得向上を図り、継続して栽培するために収量増による安定収入が確保できる魅力ある作目にするのを目的として、本課題を設定しました。

荒木TAC指導員(以下、荒木)
水田作玉葱について栽培の推進をしてきた結果、年々栽培面積は増加してきましたが十分な収量が確保できていません。継続して栽培していくためには十分な収穫量の確保が絶対条件であり、対策として本課題を設定しました。

広報 設定した課題について、どのように取り組みましたか。また、どのような結果が得られましたか。

原野 大規模複合経営をしている生産者の中で水稲と全農契約キャベツの組み合わせで取り組みを行いました。冬期の休耕田を有効活用するとともに、他品目の作業とキャベツの作

業を計画的に効率よく行えるよう提案しました。また、新規拡大ほ場では、病害虫と雑草の発生パターンが未知なため、定期的に巡回を行い生産者とともに解決策を模索しています。

具体的な対策として、2つの試験を行いました。1つ目に労力削減のため追肥3回型から土づくりを兼ねた追肥2回型の試験を行い、収量とコストの比較を行う施肥改善を行いました。次に、生育後半で病害虫被害が多発しないよう期間を通じて適期防除を徹底し、出荷率向上を目指す試験を行いました。定植以降、降雨がなく活着不良で欠株も見られましたが、生育はおおむね順調に推移しています。

荒木 設定した課題について4つの対策を設けました。1つ目は排水対策の徹底です。もみ殻暗渠・明渠を設置し、ほ場の排水性が改善し作業性も向上しています。

2つ目は、労力削減を兼ねた施肥

体系の検討です。一発肥と慣行施肥の併用タイプ、土づくりを兼ねたタイプの試験を行い、最終的に収量とコストを比較します。

3つ目は、除草対策として難防除雑草であるミチヤナギを抑える除草

体系の確立を目指します。葉齢の進んだ場合でも効果のある薬剤を検討し、既存剤との組み合わせで、繁茂は防ぐことができています。

4つ目は、病害虫防除の徹底です。昨年は育苗中からべと病が発生しました。しかし、今作は育苗中からの定期防除を徹底したところ、育苗中の発病は見られず、活着率向上とほ場での防除回数低減につながっています。

これら4つの対策により、作業性が向上し、生育は順調に推移しており、反収の向上が見込まれています。

広報 2つの課題実践を遂行するにあたりよかった点、苦労した点について教えてください。また、遂行するにあたり課題や改善点がありましたか。

原野 この作型のキャベツ栽培では不織布の被覆が必須ですが、防除や追肥の度に開け閉めする作業が労力面で厳しいという意見がありました。品種や防除薬剤・施肥体系の見直しにより改善ができるか検討していきたいと思っています。

荒木 もみ殻暗渠設置の際、機械へ一度に積めるもみ殻の量に限りがあり、作業性が非常に悪いと感じています。作業性改善策を模索しているところです。

広報 部会・生産者からの評価はいかがですか。

原野 次年度は、キャベツの作付けを更に拡大すると伺っています。また、排水が良好なほ場で水稲シーズンに作付け可能な園芸品目があればさらに提案してほしいと要望がありました。

荒木 今回の取り組みで作業性が向上し生育も順調であり、反収の向上を期待していると伺っています。雑草



の発生はほ場により異なりますが、次作では多発するほ場を改善し、除草コスト低減にも取り組みます。

もみ殻暗渠や明渠設置については部会を通じて有効活用し、部会全体の反収向上に繋がられるよう検討していきます。



TAC指導員の取り組み内容に基づいて活動されている備南営農センター管内の組合員さんにお話を聞きました。(敬称略)

水稻・野菜・果樹農家



あおぞら農園おかやま
代表

ど い こう へい
土井 康平

水稻の後作で苗からできる野菜を探していた時、TAC指導員へ相談したところ、キャベツを勧められて現在2作目です。水稻の後に栽培するため、水はけが悪く高畝や降雨時の排水対策などが課題です。

また、秀品率の向上や同じ作型の研究を行い、合理的な作業に力を入れていきたいと思います。老若男女問わず誰でもできる儲かる農業を目標にしているので、TAC指導員には今後も一緒に考えながら協力してほしいと思っています。

米麦・野菜農家



むら かみ とも かず
村上 智一

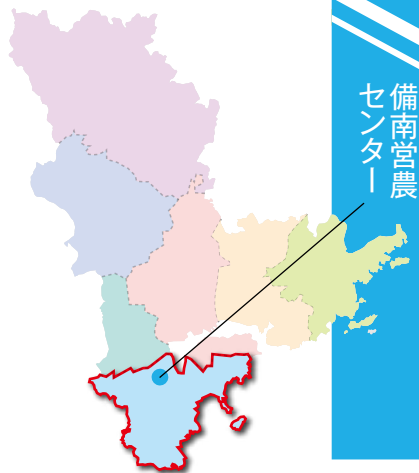
5年前からタマネギの栽培に取り組んでおり、現在4㍍を経営しています。最初は周囲で同じ経営をしている人がおらず、栽培方法が確立していなかったため、TAC指導員と育苗培土を選ぶところから一緒に始め、試行錯誤しながら軌道に乗ってきたところ です。

今後の課題としては、排水対策もありますが、現在の面積で収量を安定させ、その次のステップとして収量を増やしていきたい と思います。いずれは中生から晩生にむけて順に計画栽培を行い、米麦と作業が競合しないよう面積拡大を目指しています。

センター長に聞く

備南営農
センター

1年目の所感と
2年目への思い



広報 これまでのTAC指導員の活動評価ならびに今後の活動について期待することがあれば教えてください。

金光センター長(以下、金光)

備南営農センターのTAC指導員は、経験・知識ともに豊富で信頼して

います。従来は栽培技術指導が中心であったJAの指導事業も社会の高度化・情報化が進む中で、単に栽培技術だけにとどまらず、資金計画であつたり、農業政策にリンクした補助金の活用、法人化や先進的な技術の導入、有利販売の取り組みなどの

総合的な相談活動の重要性が増してきていると考えます。

このような、総合的な要請に応えることができるのがTAC指導員だと思っていますので、大いに期待しています。

広報 今回、TAC指導員が設定した2つの課題実践計画について、現時点での取り組みについての評価を教えてください。

金光 備南営農センターの管内には大規模な水田経営や施設茄子栽培をはじめとした専業農家が多くおられます。また、花きや果実栽培で歴史と伝統のある産地があります。

露地園芸品目の安定生産と生産振興のために、計画的なほ場巡回指導(24回/年)や栽培講習会(4回/年)に取り組んでいます。また、施肥体系の改善のための試験に取り組むこととしています。こうした取り組み

みと同時に、契約栽培による安定販売につとめています。

課題実践計画についてはキャベツの栽培面積の拡大の成果が出ています。また、タマネギの反収向上のために行っている技術指導や試験の成果が今後出てくると思っています。

広報 次年度の取組課題を設定するうえでの方向性やTAC指導員に取り組んで欲しい課題等があればお願いします。

金光 農家所得の向上と同時に、安定した所得を確保することが大切だと考えています。

TAC指導員には本所ならびに係機関と連携を保ちながらこの2つの課題解決にむけてさらにチャレンジしてもらいたいです。

予 告

ぱれっと6月号では特集 TAC指導員の課題実践報告
高松営農センターの取り組み内容を掲載予定です。



備南営農センター センター長
かなみつ よしひで
金光 美秀

野菜

日当たりよく、
肥沃で排水良好な
場所が適します



営農部指導課
中川 雄一

スイートコーンの栽培

●ほ場の準備

同時期に開花する品種の違うトウモロコシが近くにあると果実の色が不自然になったり、甘みがなくなったりするので、複数の品種を栽培する場合は場所を離します。

ほ場は日当たりがよく、肥沃で排水良好な場所が適します。播種の2週間以上前に10平方メートルあたり堆肥を約30キログラム、苦土石灰を約1キログラム施用します。

基肥は、播種の10日前までに化成肥料を窒素成分で10平方メートルあたり約150グラム（野菜いちばん約1.5キログラム）施用します。

畝幅1.5メートル（通路含む）の畝を立て、マルチで畝を覆います。

●播種

発芽適温は25～30℃で最低地温が14℃以上になったら適期です（資料1）。条間60センチ、株間30センチの2条播きにし、1カ所に2～3粒ずつ播いて覆土します（資料2）。

●間引き

本葉3～4枚のころに生育がよい1株を残します。抜き取ると株の根を傷めるので、根元からハサミで切り取りましょう。

●追肥

追肥は2回行います。1回目目は本葉6～8枚ごろ、2回目目は雄穂出穂期です。追肥量は10平方メートルあたり窒素成分で約40～50グラム（野菜いちばん約400～500グラム）です。

●灌水

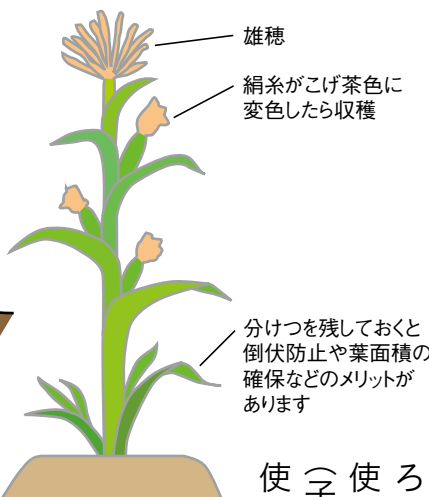
出穂期から収穫期にかけて水が不足すると着粒や果実の充実が悪くなるので、乾燥に注意しましょう。

●収穫

収穫適期は絹糸が出て22日前後で絹糸がこげ茶色に変色したころです。

1番上の房が最も肥大し、スイートコーンとして収穫します。2番目以降の房を早めに収穫することで1番目の房がより充実します（資料3）。

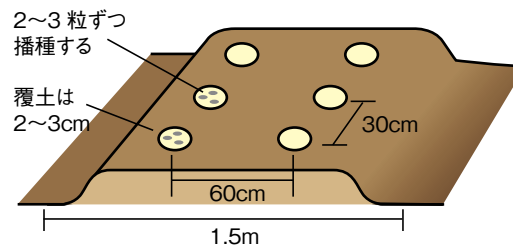
資料3 スイートコーンの株



資料1 スイートコーンの作型



資料2 播種



資料4 農薬一覧（例）

薬剤名	適用害虫	希釈倍数	使用時期 (収穫〇〇日前まで)	使用回数
アディオン乳剤	アワノメイガ	2,000倍	14日前	4回
	アブラムシ類	3,000倍		
スミチオン乳剤	アワノメイガ カメムシ類	1,000倍	7日前	4回
トレボン乳剤	アワノメイガ アワヨトウ	1,000倍	7日前	4回

※使用前にもう一度ラベルを確認してください。

●害虫

アワノメイガは雄穂（株の先端の穂）から侵入して茎や子実を食害します。受粉後、絹糸が色づき始めた後雄穂を切り取りましょう。また雄穂が見え始めた後予防的に薬剤防除をします。スイートコーンは「スイートコーン」、「未成熟とうもろこし」、「とうもろこし」の登録のある農薬が使用できます。「とうもろこし（子実）」は登録が異なるので使用できません（資料4）。

花き

「ラン」としての花言葉は「優雅」「愛情」などです



営農部指導課
中川 雄一

温かくなってくると、洋ランを徐々に屋外へ出して管理する時期です。種類によって生育特性が違うので注意しましょう。

主なランの特性

●シンビジウム

原産地は東ヒマラヤの標高800～2000m、森の地面に生え、地中に根を張って旺盛に生育します。夏でも夜間は涼風が吹く気象環境のため、比較的低温にも強いランです。

●デンドロビウム

さまざまな種類があります。中心になるノビル系は、ヒマラヤの1000～1500m地帯の木に着生しているランです。通風・通気を好み、比較的高温・低温にも耐えます。

●ファレノプシス（胡蝶蘭）

東南アジアの熱帯生まれで、

高温・多湿環境で樹木に着生して生育しているランです。そのため低温は苦手で、高い湿度を好みますが、原産地の1～2か月雨が降らない時期に耐えるため分厚い葉をしています。

●カトレア

中南米の標高10～1500m地帯のさまざまな自生種を交配しています。雨季と乾季がある気象下で樹木や岩に着生しています。

屋外に出す時期と環境条件

種類の特性に応じて、夏越し条件が異なります。資料5の表を参考に上手に夏越しし、元気な株によい花芽を着けましょう。

遮光率の目安を示しています。シンビジウムやデンドロビウムは遮光しすぎないことを意識し、他の種類と一緒に管理するなら40%くらいまでにしましょう。いずれの種類も直射光では傷むことがあり、特に屋内から出す時期は徐々に馴らすようにします。1日に4～5時間程度は日照がある方が健康に生育します。早朝の日差しくらいはかまいません。

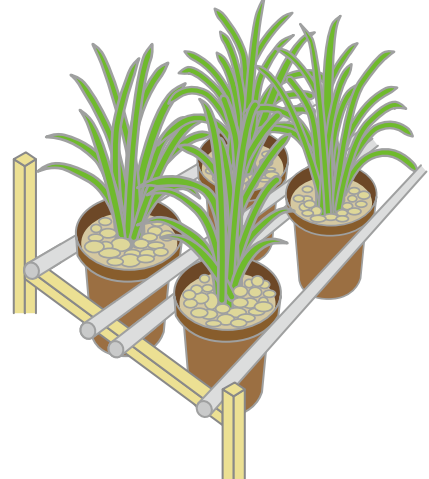
資料5 ランの種類による屋外に出す時期の目安（最低気温）と夏の遮光条件

種類	条件	最低気温の目安	遮光条件
シンビジウム		12℃以上 比較的低温でも可	30% 多少葉が色落ちする程度でも明るい日差しがあるくらいが花芽着生良好
デンドロビウム		14℃～15℃以上	30% 遮光しすぎないように
ファレノプシス		18℃以上になる日が 続くようになってから	40% 急に強光をあてると葉焼けをおこす
カトレア		15℃以上 一度でも低温に遭うと影響大	30%～40% 直射光にあてると葉焼けをおこす

資料6 ファレノプシスの新根と花芽



資料7 パイプ棚を利用した鉢管理



カイガラムシ

シンビジウムやファレノプシスは主に葉の裏（縁や葉脈沿い）に、デンドロビウムやカトレアは主に葉の付け根や薄皮の下によく着きます。湿らせてから絞った布などで、ぬぐい取るように拭きましょう。

果樹

適期を逃さない
ように管理
しましょう



営農部指導課
小野 智寛

5月の管理では桃、梨などの摘果と袋掛け、ブドウの新梢誘引・花穂の整形・結実管理・中旬ごろにはキウイの授粉・それぞれの果実の病害虫防除や除草作業など作業内容も多くなります。適期を逃さないように管理しましょう。今月はブドウの新梢管理とホルモン処理について記述しますので、参考してください。

●芽かき

短梢せん定の場合、1芽〜2芽せん定を行っているとありますが、2芽せん定の場合、1芽目よりも2芽目が早く発芽伸長します。1芽目に花が確認できたら2芽目をかき取ります。早く発芽した強勢な芽を残すと後から出た芽の生育が遅れ、枝の揃いが悪くなり、栽培管理がより忙しくなります(資料8)。

生育を揃えるために、発芽の早いものと遅いものを芽かきし、芽座に1芽残すようにします。
あわせて芽の方向、花穂の有無

を確認しながら行います。誘引時の欠損に備えて2割程度多く残しておきます。

●新梢の誘引

樹勢を揃えるため、強い枝は早めに、弱い枝は十分に伸ばしてから誘引を行います。新梢先端を無理やり誘引すると、先端が湾曲して成長を妨げますので、節間が伸びた所を誘引します。最終の誘引時に不要な枝があればかいで下さい。

●摘心

結果枝の葉腋から副梢が発生します。棚面のものは房まで2〜3枚、房先は1枚で摘心しましょう。結果枝は房先7〜8枚で摘心します。

●花穂整形

品種により異なりますのでここでは巨峰系とシャインマスカットについて説明します。

開花までに果穂の整形を行います。

花穂先端の3〜3.5cmを残しその他は摘み取りますが、ホルモン処理の目安として花穂中央部の車を2車残します(資料9)。整形処理時期としては、開花3日前〜開花始めを目安に行います。

●ホルモン処理

結実安定と種無果にするために1回目の処理(ジベレリン25ppm+フルメット2〜5ppm)をします。

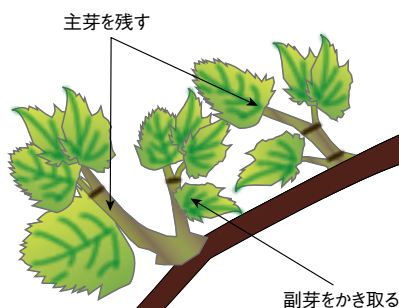
第1回目の処理は満開時〜満開後3日の間に行います。

1回目の処理終了後、目印にした2車を1車にします。

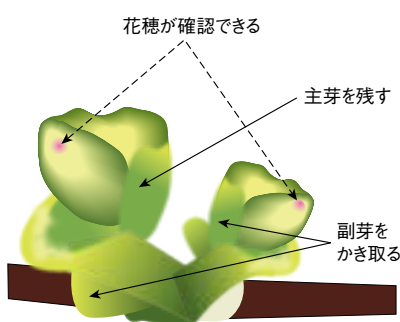
・注意事項

ジベレリンはスティック状の小袋に50箇所入っています。水2ℓに

芽かき完了時期



資料8 芽かき始め時期

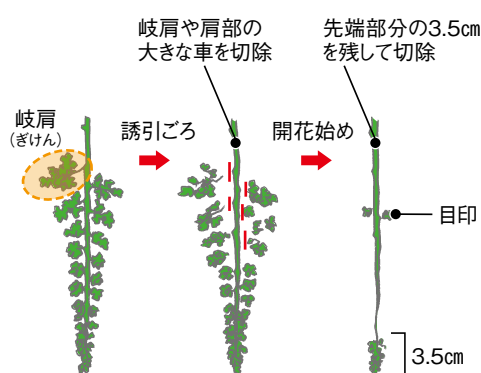


資料10 ホルモン処理時期と濃度

巨峰系(ピオーネ・藤稔・オーロラブラック等)	
1回目	2回目
満開時〜満開後3日	1回目処理の10〜15日後
ジベレリン25ppm +フルメット2〜5ppm	ジベレリン25ppm またはフルメット5ppm

溶くと25ppmになります。フルメットは小瓶1本に10ℓ入っています。水2ℓに溶くと5ppmになります。ホルモン処理は濃度・処理時期を変えると、大きく効果が変動しますので使用前に説明書をよく読んでお使いください(資料10)。

資料9 花穂整形の手順



「ブリのごまみそしょうが焼き」



作り方

- (1) タマネギ、パプリカは串形に切る。
- (2) フライパンにサラダ油をひき、小麦粉をはいたブリ、タマネギ、パプリカを中火で両面焼く。
- (3) 合わせだれをボウルに入れて混ぜ、(2) に絡める。
- (4) (3) にざく切りにしたセリをサッと絡めて出来上がり。

レシピ提供／永井智一（ながいともかず）
茨城県笠間市にある「天晴（旧キッチン晴人）」オーナーシェフ



材料（2人分）

材料(2人分)
 ブリ 2切れ(30g)
 タマネギ 1/4個
 赤・黄パプリカ 各1/4個
 セリ 適宜
 サラダ油 適宜
 小麦粉 適宜
 合わせだれ
 みそ 大さじ1
 かつおだし 大さじ3
 おりん 大さじ1
 酒 大さじ1
 しょうゆ 小さじ1
 砂糖 小さじ1
 いりごま 大さじ2
 おろしショウガ 小さじ2

Ag logram

あぐろ
グラム

編集後記

レンゲの風景

今回のあぐろグラムでは岡山市北区尾上地区のレンゲ田をご紹介します。「春の風物詩」であるレンゲ田は桃太郎線の沿線にあり車窓から美しい風景を眺めることができます。

マメ科の植物であるレンゲは根粒菌と共生していることから田んぼの緑肥として使われていますが、稲の品種改良をはじめとする生産技術の向上で今ではその姿を見ることも少なくなってきました。きれいなレンゲの花と形は変わりませんが、咲く場所と役割は昔と今とでは大きく変わってきているようです。

今春より広報担当に任命され、今回の編集後記を担当しました。管内の情報に常にアンテナを高くして、組合員・利用者の皆さまに興味を持っていただけるよう、幅広い広報活動に努めてまいります。

編集担当 久山 隆一

